

なよろ市立天文台（愛称：きたすばる）

—豊かな自然の中で「星と音楽」生の体験を—

佐野 康 男

〈なよろ市立天文台 〒096-0066 北海道名寄市字日進 157 番地 1〉

e-mail: kitasubaru@nayoro-star.jp

1. なよろ市立天文台オープンまでの経緯

名寄市は北海道北部に位置する人口約3万の中核都市です。

昭和48年に故 木原秀雄氏によって建設された私設天文台が、平成4年に市へ寄贈となり「名寄市立木原天文台」として運営されました。当時「弱小天文台」の一つとして存続の危機に面していましたが、三つの超新星の発見（SN1997efは後に人類初の極超新星とわかる）やインターネットによる情報の発信、数多くの観望会を通し、名寄市民のみならず全国に注目される存在となりました。

そんななか、名寄青年会議所や地元市民、各団体から「名寄の素晴らしい星空環境を利用し天文台を活かした特色あるまちづくりを進めては…！」と声が上がリ、市内日進地区ですでに整備が進んでいた「道立サンピラーパーク」内に、新天文台建設誘致を進めるため署名や募金活動が行われました。

それらが発端となり、平成18年3月、旧風連町と旧名寄市の合併により誕生した名寄市の「総合計画」に組み込まれました。

2. 国立大学と地方自治体との連携による天文台運営

平成17年12月にはかねてから研究協力関係を続けてきた北海道大学大学院理学研究科と名寄市が相互協力協定を締結、また理学研究科が大学院理学院と再編され宇宙理学専攻が誕生、国内屈指

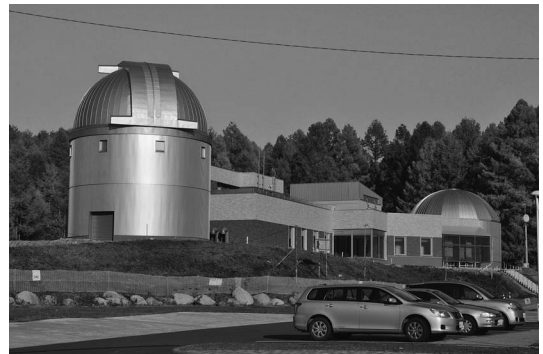


図1 なよろ市立天文台（愛称：きたすばる）。

の星空と観測に適した気象条件や自然災害の希少な場所であることから、本物の星空を活かした大学院生の教育に力を入れることで合意、建物は名寄市、望遠鏡観測機器は北大と、国内では珍しい国立大学と地方自治体が連携した事業展開が実現いたしました。

3. 施設について

なよろ市立天文台は、鉄筋コンクリート2階建て総工費約8億4,000万円を費やし、道立公園サンピラーパーク内「星見の丘」に建設されました。建設に当たっては国内外で実績のある国際航業に発注、地質・震動調査を含め構想から約10年の歳月をかけ極寒地に合った天文台作り知恵を絞りました。

名寄市が建設した部分はすでに完成しており2階屋上にはスライディングルーフ観測室が設置され、多目的オリジナル製の50cmカセグレン式望遠

鏡(高精度ミラー・田口鏡), 40 cm 新天体サーベイ専用望遠鏡, ほかに2台の赤道儀を設置し撮影専用筒鏡と一般向けの望遠鏡が搭載され合計4台の赤道儀が備え付けられています。

また屋上はウッドデッキとなっていて, 晴天時には15 cmの双眼鏡を使い昼間は道北の美しい景色, 夜は星雲・星団等を見ることができます。

また, 太陽専用の望遠鏡も設置し白色光やH α の太陽像を展示室で来客者の方たちに見てもらえます。

1階部分は, 故 木原秀雄氏の貴重な展示物や国内外の貴重な隕石展示, プラネタリウムは50人収容でリブラ社とアストロアーツ社, 天窓工房社の作製により完成した最新デジタルプラネタリウムを設置, 超高感度VTRカメラの映像や望遠鏡からの映像をリアルタイムで投影することができます。

その他, レクチャールームは100人収容が可能です。

4. 市民一体で作った天文台

名寄市周辺は大きな都市が少なく離れていることから星空が美しいので, 当然ながら肉眼で見る天の川は見事な姿であり, 中口径の望遠鏡で見る星雲・星団は淡いながら色が付いて見えるものもあります。

しかし, それだけでは特別驚くものではないと私は思っています。この豊かな自然条件を別な視点で利用し効果を高めることはできないものかと



図2 音響・照明が備わったレクチャールーム。

考えたのが「星と音楽」を生で見て聴くことで, 音楽ライブを楽しめたりレコーディングなどが行うことができる音響・照明設備の設置でした。

レクチャールームにはグランドピアノ, プラネタリウムにはアップライトピアノが設置され, 私の所属するJAZZバンド「スパンヴァ」のメンバーであり名寄市内でピアノ音楽教室講師を勤めている近江利佳氏から寄贈されました。

この「星と音楽」のアイデアを発案したのも近江氏であり「星ってロマンチックなので, 学術的なことは何もわからないのですが音楽と合体させるときっとステキだろうなと思ったのです」との言われたことが発端となりました。

昨年, 新天文台応援イベント開催に向けて「STAR and MUSIC」実行委員会が結成され, 3月1日に名寄市民会館で, 近江氏の愛弟子で世界的に活躍しているサクソ奏者の深田元晴さんと呼んで「STAR and MUSIC」のライブを実施, 名寄市民会館は満席となり, 星と音楽が市民からも多くの反響と支持をいただき新たな事業展開を感じました。

また, すでに国内有数のミュージシャンからライブ依頼が多くきていて, 音楽を楽しみ星を見てもらい集客も増やす企画に大きな弾みとなっています。

5. 今後のビジョンについて

市民が一体となって建設されたこの天文台, さ



図3 プラネタリウム・ピアノ・ソロコンサート。

らに大きなことは北海道大学大学院理学院が制作設置予定の口径 1.6 m の経緯台式望遠鏡が平成 23 年度から研究利用や一般の方たちにも解放され本オープンとなります。単に「教育・研究・観光」のみならずまだまだ幅が広がる可能性があります。

目の前に普通にあるもの…意外と気がつかない宝はたくさんあると思っています、名寄の星空は「宇宙の窓」が開いている場所と私は思っています、そんな宝の窓をもっともっと広げていき、垣根を越えた存在にしていきたいと思っています。

「あれ？ また来てしまった」と言われるような天文台にしたい…。

6. 最後 に

平成 22 年 4 月 16 日、なよろ市立天文台「きたすばる」のオープンセレモニーが開催、国内から関係者など約 100 人が出席しました。

その中で行われたセレモニーでは音響・照明をフルに活かした生ピアノとドラムの演奏が行われ、背景には木原天文台で撮影され続けた映像が映し出され、なよろ市立天文台の特徴的なオープンとなり無事に開台いたしました。

そして、今回のオープニングセレモニーで披露した曲「To The Sky ～宇宙（そら）へ」は近江利佳氏による作詞作曲、なよろ市立天文台のテーマソングとしてこの天文台でコーディングし (Vo/P 近江利佳, Drum 佐野康男, Bass 勝本宣男)、



図4 オープン・テープカット式。

ボーカルバージョン、JAZZバージョン、オルゴールバージョンの3曲入りで1枚500円で発売中です。

住所: 〒096-0066 北海道名寄市字日進 157 番地 1

電話: 01654-2-3956

Fax: 01654-2-0267

e-mail: kitasubaru@nayoro-star.jp

URL <http://www.nayoro-star.jp/kitasubaru>

◆開館日・開館時間

毎 週: 水曜日～日曜日、祝日

期 間: 開館時間

夏時間: 4月～9月 13:00～21:30

冬時間: 10月～3月 13:00～20:00

◆休館日

毎 週: 月曜日・火曜日

祝日直後の休館日でない日

年末年始: (12月30日～1月6日)

◆入館料

・通常料金

一般 500 円 大学生 400 円

小学生・中学生・高校生 200 円

・名寄市民特別料金

一般 400 円 大学生 300 円

小学生・中学生・高校生 無料

・通常年間入館料 (年間パスポート)

一般 1,500 円 大学生 1,200 円

小学生・中学生・高校生 500 円

・名寄市民特別入館料 (年間パスポート)

一般 1,200 円 大学生 1,000 円

小学生・中学生・高校生 無料

・団体利用 (10人以上)

一般 400 円 大学生 300 円

小学生・中学生・高校生 100 円

・名寄市民団体利用 (10人以上)

一般 300 円 大学生 200 円

小学生・中学生・高校生 無料

◆アクセス

お問い合わせ下さい。